

# 矢作川圏域大規模氾濫減災総合協議会の開催概要

日時：令和7年5月13日（火）13：30～14：30

場所：岡崎商工会議所 大ホール

（対面および Web 形式によるハイブリッド開催）

## 1. 【気象概況】＜名古屋地方気象台＞

- 1) 2024年（令和6年）の愛知県の天候
- 2) 東海地方 3か月予報解説資料
- 3) 防災気象情報の改善について（概要）

（主な内容）

- ・ 令和6年の愛知県の気象概要、東海地方の令和7年5月～7月の天候の見通し、防災気象情報の改善について説明した。

## 2. 矢作川水防災協議会の議事内容

- 1) 新たな取組について
  - ・ 矢作川水系流域治水プロジェクト 2.0
  - ・ 危機感共有サイト
  - ・ 東海（恵南）豪雨から25年啓発動画と浸水体験 VR
- 2) 矢作川水防災協議会について
  - ① 矢作川の減災に係る取組状況
  - ② 矢作川水防災協議会フォローアップ
  - ③ 取組進捗にあたる課題の共有と今後の方針

（主な内容）

- ・ 令和6年度に実施してきた取組内容について代表機関より説明した。
- ・ 令和7年度で取り組む内容の実施状況について代表機関より説明した。

（主な発言）

- ・ 幸田町では、令和6年台風10号接近の際に、隣接する蒲郡市における土砂災害警戒区域に指定されていない場所で土砂崩れが発生したことと、町内でも大雨注意報、土砂災害注意報が発令されたことから、本来時間雨量30ミリで立ち上げる災対本部を時間雨量27ミリの段階で立ち上げて警戒体制をとり、有事にも素早く対応できるように24時間体制で職員が2日間交代で体制を維持した。
- ・ 岡崎市をはじめ、西三河の9市1町で西三河防災減災連携研究会を実施している。大規模な水害に際しては、どうしても岡崎市だけでは避難先として対応ができない。本市は人口38万人だが、矢作川の浸水想定区域の中に約20万人の住民がおり、

避難体制について考える場として研究会の中で様々なケースを想定している。また、南海トラフ地震では沿岸部の西尾市等の津波避難に関する広域避難の研究を各自自治体の中で続けている。

- 西尾市では、学校安全総合支援事業を中心に、市内全域の小中学校において子どもたちや地域の実情に応じた防災教育を進めた。多くの小中学校で危機管理課職員の講話を行い、津波浸水区域の学校では津波浸水区域外への避難訓練を行った。白浜小学校では高台への避難訓練を全校で行い、吉田小学校では実際に体育館にテントを配置し、運営側と避難者側に分かれて避難所設営訓練を行った。平坂中学校では避難所運営ゲームや災害クッキング講座などを行うとともに、平坂中学校区の小学校に中学生が出向き、講師となって、小学生に防災技術を教える小中合同防災講座も実施した。さらに、授業に保護者や地域の方々を招いて一緒に活動したり学んだりしたことをまとめ、地域に広める活動をした。学校と行政、地域が連携して防災学習に取り組んだ。
- 豊田市では、想定最大規模の降雨に対して、洪水ハザードマップを作成し、さらに愛知県内の1巡目の土砂災害警戒区域の指定が完了したことで、市全体の水害リスクを把握することができたため、市の水害に関する基礎調査を独自に実施し、水害被害予測調査結果報告書を作成した。その報告書をもとに、各地区でモデル地区を設定し、アンケートを踏まえて避難方針案を作成し、豊田市のホームページで公開している。
- 刈谷市では、大規模風水害が発生した場合を想定した災害情報伝達訓練を行った。訓練では、市民からの電話通報等により把握した被害情報を、新たに導入したデジタルツール Kintone を活用して災害対策本部全体へ共有する手順や、共有した情報への対応手順を確認した。より実効性のある訓練とするため、災害時における職員行動マニュアルなどを訓練に先立ち作成した。訓練内容は、避難所に関する市民からの問い合わせへの対応、巡視職員より把握した通行止め情報の市民への伝達など、様々なシナリオに沿って対応の手順を確認することで、市民に対する迅速な災害情報の伝達を図った。
- 高浜市では、災害時の迅速な情報伝達ツールとして、防災メール、LINE、防災ラジオ、ケーブルテレビなどの活用を行っている。防災メールなどの登録促進として、ホームページや広報に掲載しており、災害時にはプッシュ型、地域を特定した注意情報、警戒情報が通知されるメリットを周知している。また、テレビ放送、ケーブルテレビなどでも避難情報や必要な気象情報を広く伝達している。
- 安城市では、昨年度、一昨年度に引き続き、公共施設の想定浸水深表示の整備をしている。浸水区域に位置する公民館、中学校、保育園など、公共施設に整備しており、昨年度は4箇所に対して浸水深表示や洪水標識を整備した。市民への水害リスク等を図っている。

- ・碧南市では、秋に市内全域の清掃活動を行っている。令和6年11月17日「秋のクリーンピーときれいな街づくり事業」の際に、矢作川河川において100名を超える市民や各種団体が清掃活動を行った。この事業に合わせ、市内建設会社で構成している災害復旧協議会も参加し、安全管理に努める活動を行っている。
- ・知立市では、水防団がないため、消防団がその業務を兼務している。毎年1月に消防出初め式を行っているが、年末の夜警も行っており団員の負担が大きいため、出初め式を今年1月の分から廃止した。団員だけでなく、家族にも負担をかけており、感謝の場を設けたいという意見を受けて、式典ではなくイベントとして1月20日の愛知消防団の日に合わせて、1月19日に知立市消防団フェスを開催した。団員の家族や一般の来場者に、子ども用の消防服の着装や記念撮影、消火器訓練などを行って、広く市民に消防団を知っていただく機会を設けるとともに、団員として活動していただけるように入会促進啓発品として手ぬぐいを作成して配布した。当日は約1000名が来場した。
- ・矢作ダム管理所では、矢作ダムの堆砂、堆積する土砂の掘削・浚渫について紹介する。ダムの容量を維持するためには掘削し続ける必要があり、国と民間の砂利採取で対応している状況である。令和6年度は約6万m<sup>3</sup>の掘削を行っており、令和7年度についても同様に掘削を続けていく予定である。

### 3. 矢作川洪水予報連絡会の議事内容

- 1) 令和6年度事業報告及び、令和7年度事業計画（案）について
- 2) 矢作川令和6年8月出水予警報の発令状況について

(主な内容)

- ・洪水予報連絡会の令和6年度事業報告、令和7年度事業計画（案）を説明するとともに、令和6年8月出水時の洪水予報の発表状況を説明した。

### 4. 矢作川水防連絡会の議事内容

- 1) 水防活動の「見える化」について
- 2) R7「水防月間」の実施（毎年5月）
- 3) 早めの避難により被害を免れた事例
- 4) 災害の伝承と避難の呼びかけ
- 5) ワンコイン浸水センサについて
- 6) 令和6年度事業報告及び、令和7年度事業計画（案）について

(主な内容)

- ・水防に関する取組として、水防活動の見える化、令和7年度の水防月間、早めの避難により被害を免れた事例等について話題提供を行った。
- ・ワンコイン浸水センサ実証実験の表示システム、参加自治体、活用事例等について

説明した。

- 水防連絡会の令和 6 年度事業報告、令和 7 年度事業計画（案）を説明するとともに、令和 6 年 8 月出水時の水防警報の発令状況を説明した。

以上